

Gerhard Richter

ゲルハルト・リヒター展



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

はじめに

ゲルハルト・リヒターは、1932年、ドイツ東部、ドレスデンで生まれました。1961年、ベルリンの壁が東西ドイツを分断する直前に西ドイツのデュッセルドルフに移住し、のちにケルンを拠点に活動を続けてきました。60年以上に及ぶ長い芸術的実践のなかで、〈フォト・ペインティング〉、〈カラーチャート〉、〈グレイ・ペインティング〉、静物画、風景画、〈アブストラクト・ペインティング〉、〈オイル・オン・フォト〉、ガラスや鏡を用いた作品、〈ストリップ〉など実に多岐にわたる作品を生み出してきました。

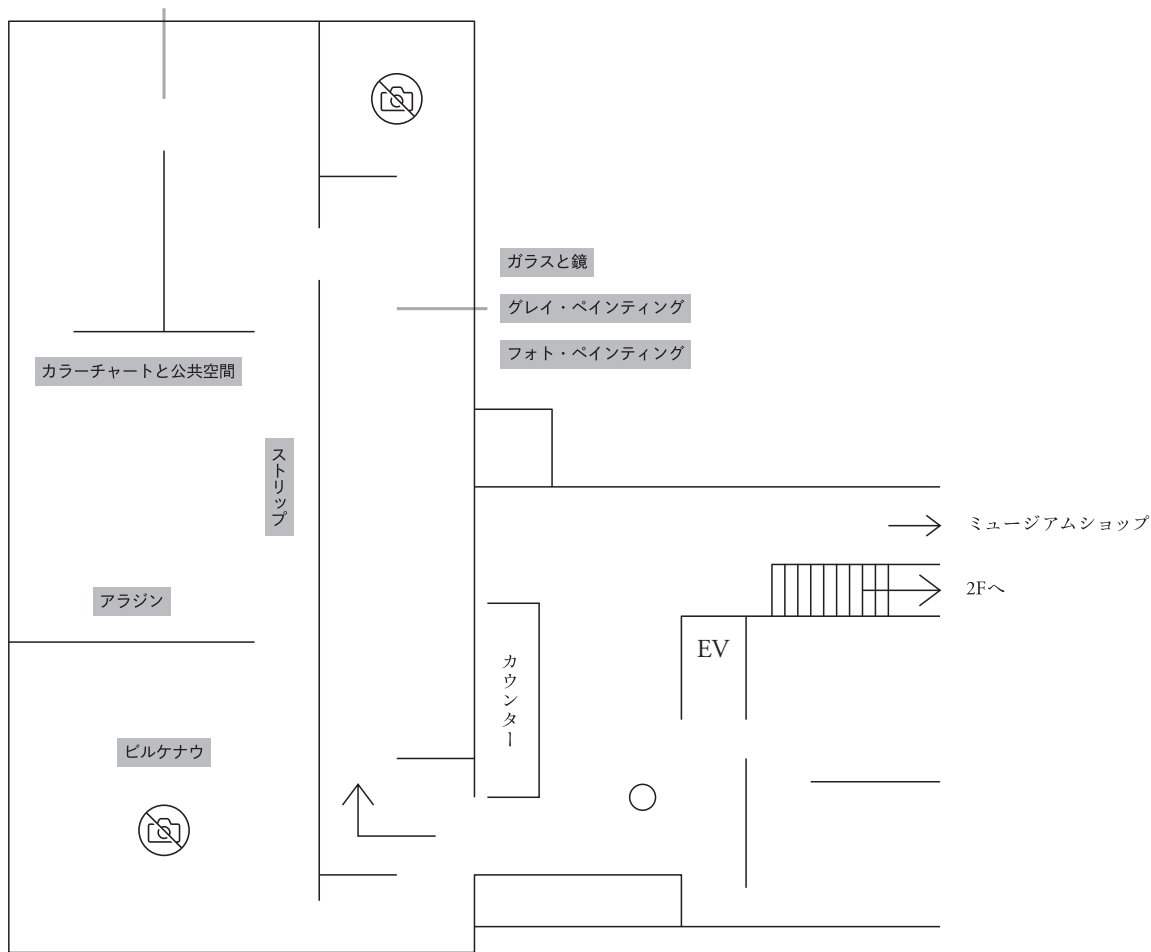
本展覧会はゲルハルト・リヒター財団と作家本人が所蔵する作品を中心に、自らの仕事をつねに更新しつづけてきたリヒターの軌跡を紹介します。今回の主な借用先であるゲルハルト・リヒター財団は、2019年12月9日に創設されました。今回展示される《ビルケナウ》(nos. 64～67)を散逸させないことが、財団設立のきっかけとなったそうです。財団が所蔵する作品はリヒターの画業の初期から近作までを含み、それらの多くが、今後、ベルリンの国立美術館に永久寄託される予定になっています。

本展覧会ではゲルハルト・リヒターの作品をおおむね制作年および作品番号の順にしたがって並べています。ここに掲載されたキーワードを手がかりに、1階から3階までの4つの展示室で60年にわたる作家の展開をご覧ください。

1F

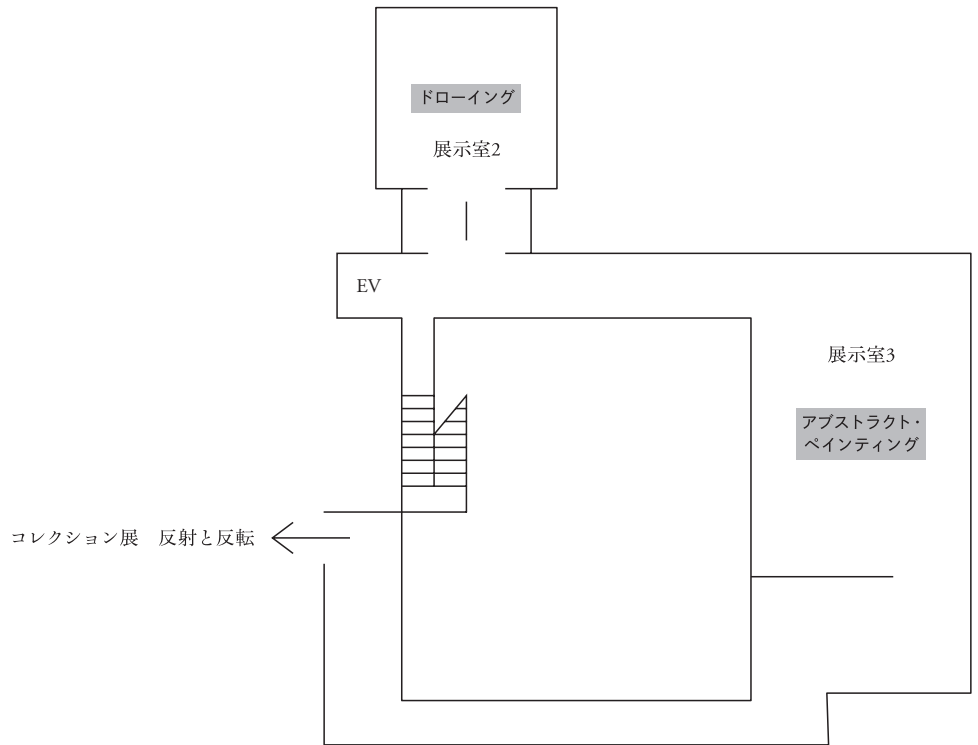
抽象的・ペインティング 頭蓋骨、花、風景 肖像画

オイル・オン・フォト フォト・エディション

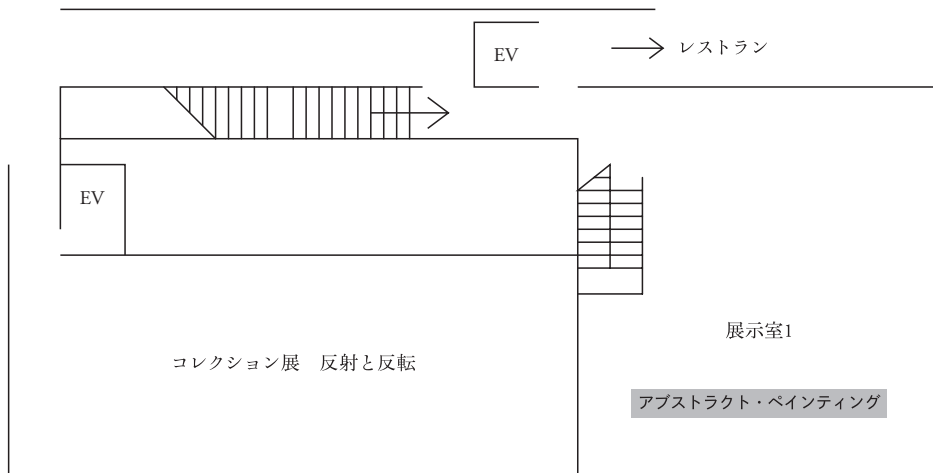


展示室8

3F



2F



フォト・ペインティング

1950年代末、すでに東ドイツで壁画家として活動していたリヒターは、自由に惹かれて西ドイツに移ります。デュッセルドルフ芸術アカデミーでふたたび学生になったものの、自由であることそれ自体、そして作家の主体的な意志や作為自体に疑念を抱きます。そこで彼が頼りにしたのは新聞や雑誌に載っている写真や家族などを撮影した写真で、それをできるだけ正確にうつしとるようにキャンバスに描き始めました。カメラを介したイメージはすべて等価で、構図も構成も画家が判断しなくて済む、すなわち主体的な判断を回避しつつ、描くことが可能だったからです。リヒターは写真に隷属するように絵画を描くことから画家としてのキャリアをやり直したのです。しかしそうした迂回を経ることによって、逆説的に描くべき対象をどのように選ぶかが重要になっていくのです。

グレイ・ペインティング

1960年代後半、キャンバスを灰色の絵具で塗り込めるグレイ・ペインティングと呼ばれるシリーズが登場します。同じ灰色の階調で描かれるフォト・ペインティングの「ボケ」を最大化したようでもありますし、色彩を混ぜ合わせていけば、いずれは灰色になるという意味では、還元的な手つきも認められます。リヒターは灰色について「無を示すのに最適」と語りますが、その画面に絵具を載せる方法には筆だったり、ローラーだったり豊かなヴァリエーションがあります。そこでは塗ることそのものが、あるいは塗る行為の形跡を見ることが何を生み出しえるのかが検証されているのです。このシリーズはやがて〈アブストラクト・ペインティング〉へとつながっていきます。

「把握することなく、見ること」。リヒターは1967年以降繰り返し用いてきたガラスや鏡について、こう語ったことがあります。それは彼が写真を「構図も、判断もない、純粋なイメージ」だと考えていることと重なっています。リヒターの〈フォト・ペインティング〉が、キャンバスをフィルムとしてそこに画像を定着させようとする行為だとしたら、ガラスや鏡を用いた作品はまたなにも写し込まれていないフィルムのような（あるいは今日的にはイメージセンサーのような）ものと言えるでしょう。置かれた場所やその時々によってあらゆるイメージを映し出す。それはリヒター作品の原理の一つです。そしてリヒターはガラスや鏡の反射率、大きさ、色彩をさまざまに調整することで、その原理をも再検討しつづけるのです。

アブストラクト・ペインティング

〈アブストラクト・ペインティング〉は、1970年代後半にパレットにたまたま載っていた絵具の写真や自作の一部分の写真を、〈フォト・ペインティング〉と同じように拡大して描くことから始まりました。やがて「スキージ」と呼ばれる自作の大きく長細いへらを用いて、キャンバス上で絵具を引きずるように延ばしたり、削り取ったりすることで独自の絵画を生み出すようになります。

リヒターがこれらの作品を「アブストラクト・ペインティング」とあえて名づけていることも重要です。それは文字通り、「抽象的に」「描く」ことについて、あるいは「抽象的な」「図像」とはいかなるものかと思考するための作品群と言えるかもしれません。リヒターはそうしたイメージが、この現実とは別の、異なるものどうしが活発に同居するような世界を指し示していると語っています。

リヒターはときおり、頭蓋骨や花を描いた静物画や山並みや海を描いた風景画といった、古典的な主題を取り上げます。頭蓋骨や花は、西洋絵画の伝統においては「メメント・モリ」や「ヴァニタス」といった生の儚さへと連想を誘う主題です（花という主題は美の問題にも関わっているでしょう）。山々や森を描いた風景画は、19世紀ドイツのロマン主義絵画にとりわけ好まれたものです。リヒターはこうしたともすれば時代遅れの、非今日的な主題に対して「あこがれ」があると語ります。すでに失われてしまった過去の世界の在り方は、いまだに私たちを構成する一部であり、こうした主題には現代の価値を転覆させるような力がある、と。

リヒターが〈アブストラクト・ペインティング〉の制作の合間に、これらの主題を描いているという事実も興味深いものです。

肖像画

妻のザビーネを撮影した写真に基づく《水浴者(小)》(no. 16)と《トルソ》(no. 17)の2点は、きわめて身近なモデルでありながら、どこか匿名の人物のように扱われていて、見るひとの欲望を掻き立てる古典的なヌードとも、親密な肖像画とも違っていています。リヒターがかつてポルノ写真とアウシュヴィッツ強制収容所の裸体の写真を並べる展示を構想していた事実が示すように、彼の作品においてヌードはつねに両義的です。画家の子どもたちを描いた《モーリッツ》(no. 25)と《エラ》(no. 35)では、前者は繰り返し手を入れることで、後者はあからさまな刷毛目によって、成長し変化する子どもの姿と絵画のイメージとが重ねられているかのようです。これら画家の近親者を描いた「肖像画」からは、画家の、そして同時に私たちの、イメージに対する心理的な距離感や見ることにまつわる意味の重なりが浮かび上がります。

オイル・オン・フォト

〈オイル・オン・フォト〉は、1980年代後半からつくられ始めた、写真に油絵具などを塗りつけたシリーズです。ほとんどの場合、日付が作品名になっています。日付は撮影日でも絵具を塗布した日付でもなく、おそらく、それが作品として成立すると判断された日付なのでしょう。絵具は写真の被写体を覆い隠し、即物的な存在感を強調します。一方、写真の再現性に比して、その上に塗布される絵具はほとんどの場合、抽象的です。このように写真と絵具が混じり合ったり、相互に呼应しあったりすることなく、同一の平面上に並置されるこのシリーズは、絵画と写真、再現性と抽象性が拮抗しあうという点で、小さいながらもリヒターの創作の核心を端的に示してくれます。

カラーチャートと公共空間

東ドイツで壁画制作を職業としていたためか、リヒターにとって公共空間でイメージがどのように機能しうるのかはつねに重要な課題でした。1990年代末にドイツ統一を記念する新しい連邦議会議事堂への巨大作品を、2000年代にケルン大聖堂のステンドグラスのデザインを依頼されると、リヒターは試行錯誤の末にかつて集中的に手がけたカラーチャートのシリーズを取り上げました。本展出品作の《黒、金、赤》(no. 21)と《4900の色彩》(no. 34)はともにその過程から生まれた作品で、既製品の色見本の色彩を偶然にしたがって配するカラーチャート作品に由来します。本展ではニュートラルな美術館の展示室に置かれていますが、こうした作品が国家や宗教を象徴する公共空間に設置するために制作されたという背景を想像してみると、リヒターの選択がまた興味深く見えてくるでしょう。

アラジン

2010年から制作され始めた、一種のガラス絵とも言えるシリーズです。何色かのラッカー塗料を板の上に乗せ、ヘラや筆でかき混ぜ、塗料の動きに任せ、ガラス板を上から載せて軽く圧すと、ラッカー塗料がガラス面に転写されます。この作品のイメージは塗料そのものでありながら、私たちが見る作品の表面は完全に平滑で、物質的な重みを感じさせません。その他のシリーズと同様に、色の選択、かき混ぜの度合いといった作家の主観的な意図と、塗料という事物が生み出す偶然がせめぎ合ってイメージが生まれます。そのイメージは幻想的かつ想像を誘うようなところがあるため、リヒターは「アラジン」といった物語を喚起させるタイトルをつけました。

ストリップ

〈ストリップ〉は、2011年から始められたデジタルプリントのシリーズです。作品によって色調は異なりますが、すべて1990年に制作された、ある一枚の《アブストラクト・ペインティング》に由来します。この絵画をスキャンしたデジタル画像を縦に2等分しつづけ、幅0.3ミリほどの細い色の帯をつくります。その帯を鏡うつしにコピーして横方向につなげていくと、単なる色の線の集積としての横縞へと還元されます。戦後の抽象絵画を思わせる非構成的、かつオールオーバーな画面ですが、絵画的なテクスチャーを見出すことはできません。絵画と写真とのあいだでイメージを生み出しつづけてきたリヒターが、80歳を目前にして試みたシリーズです。

《ビルケナウ》(nos. 64～67)は4点からなる絵画作品です。これら絵画の下層にはアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所で密かに撮られた4枚の写真イメージが描かれています。しかし黒と白、ところどころ赤と緑の絵具を用いて塗り込められた絵画面からは、写真イメージの痕跡を見出すことはできません。スキージによってならされたためか、微細な傷がつきつつも光沢のある表面は、鉛、もしくはなめされた皮のような質感を思わせます。私たちはこの作品の名前と、絵画の下層に描かれているイメージの複製写真を手がかりに、抽象的な絵具の壁を越えて、これら見えないイメージ、抑圧された出来事を想像するよう迫られます。その点で、滲み出るかのように画面に点在する赤と緑の色彩はきわめて示唆的です。

*この展示室内に展示されている、強制収容所の内部を撮影した記録写真の複製には、暴力的表現が含まれています。ご理解のうえご鑑賞ください。

ドローイング

今回展示される作品のように、断片的な線や面を画面全体に配し、画面の隅に日付を描き込む現在のスタイルを確立したのは1980年代に入ってからのことでした。グラフィットや顔料をこすりつけたり、消しゴムを使って線や面を抹消したりする描法は、リヒターが絵画においてスキージやスクレーパーを用いることと並行すると指摘されています。またリヒターの作品においては、フリーハンドの震えるような線描のみならず、製図のような直線、円、細やかな陰影などを観察できます。作者の無意識や恣意性、素材の特性が生み出す偶発性をこれらの制作における重要な条件としつつ、それらに完全に任せることもありません。この絶妙な匙加減が特異なイメージを生み出しています。

1966年という初期の頃から、リヒターは自身の絵画の複製写真を写真作品としてたびたび制作・展示してきました。こうした写真作品は、絵画の代替という役割もありながら、その多くは寸法、トリミング、色彩、額装方法など、さまざまな仕方でオリジナルと異なっています。今回の出品作である《ルディ叔父さん》(no. 28)は写真作品ですが、リヒターの家族写真に基づく絵画作品に由来します。この作品では、あえて焦点を少しぼかして絵画が撮影されていて、絵画としての肌理をほとんど確認できません。リヒター作品における絵画の複製写真はその単なるコピーではなく、同一イメージの、絵画と写真における現れ方の差異を検証しているかのようです。

作品リスト

1 [CR 79a]
モーターボート (第1ヴァージョン)
Motorboot (1. Fassung)
1965
油彩、キャンバス

2
フィルム：フォルカー・ブラトケ
Film: Volker Bradke
1966
16ミリの白黒フィルム
14分32秒
個人蔵

3 [CR 130a]
8人の女性見習看護師 (写真ヴァージョン)
Acht Lernschwwestern (Fotoversion)
1966 / 1971
8枚の写真

4 [CR 192-1]
グレイの縞模様
Grauschlieren
1968
油彩、キャンバス

5 [CR 348-3]
グレイ
Grau
1973
油彩、キャンバス

6 [CR 348-7]
グレイ (樹皮)
Grau (Borke)
1973
油彩、キャンバス
作家蔵

7 [CR 401]
グレイ
Grau
1976
油彩、キャンバス

8 [CR 548-1]
頭蓋骨
Schädel
1983
油彩、キャンバス

凡例

- ・作品リストは、以下の順番に掲載されている。通し番号／カタログ・レゾネ [CR] 番号／作品名 (日・独 [原題])／制作年／技法、支持体／所蔵先。
- ・カタログ・レゾネを [CR] と略して表記する。[ED CR] はエディション作品のカタログ・レゾネを指す。
- ・ただし、所蔵表記のない作品は、ゲルハルト・リヒター財団所蔵作品である。
- ・作品情報はおもにカタログ・レゾネに基づいているが、必要に応じて所蔵者が提供した情報を優先した。

9 [CR 619] 鏡 <i>Spiegel</i> 1986 鏡 (ガラス)	17 [CR 844-1] トルソ <i>Torso</i> 1997 油彩、アルコポンド 作家蔵	25 [CR 863-3] モーリッツ <i>Moritz</i> 2000/2001/2019 油彩、キャンバス 作家蔵
10 [CR 695-3] 不法に占拠された家 <i>Besetztes Haus</i> 1989 油彩、キャンバス	18 1998年2月13日 <i>13. 2. 98</i> 1998 油彩、写真	26 [CR 865-2] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2000 油彩、キャンバス
11 [CR 735-3] 鏡、グレイ <i>Spiegel, grau</i> 1991 顔料、ガラス、額	19 1998年2月14日 <i>14. 2. 98</i> 1998 油彩、写真	27 [CR 868-2] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2000 油彩、キャンバス
12 [CR 736-4] 鏡、血のような赤 <i>Spiegel, blutrot</i> 1991 顔料、ガラス	20 1998年2月28日 <i>28. 2. 98</i> 1998 油彩、写真	28 [ED CR 111] ルディ叔父さん <i>Onkel Rudi</i> 2000 チバクロームプリント、アルディポンド、額 作家蔵
13 [CR 764-2] 花 <i>Blumen</i> 1992 油彩、キャンバス	21 [CR 856-7] 黒、赤、金 <i>Schwarz, Rot, Gold</i> 1999 合成樹脂塗料、ガラス	29 [CR 876-13] アンテリオ・ガラス <i>Antelio Glas</i> 2002 ガラス、スチール
14 [CR 778-4] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 1992 油彩、アルミニウム 作家蔵	22 [CR 857-3] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 1999 油彩、アルコポンド	30 [CR 881-1] 1945年2月14日 <i>14. Feb. 1945</i> 2002 写真、アンテリオ・ガラス、額
15 [CR 807] 3月 <i>März</i> 1994 油彩、キャンバス 作家蔵	23 1999年11月9日 <i>9. Nov. 1999</i> 1999 油彩、写真	31 [CR 890-1] ヴァルトハウス <i>Waldhaus</i> 2004 油彩、キャンバス 作家蔵
16 [CR 815-1] 水浴者 (小) <i>Kl. Badende</i> 1994 油彩、キャンバス 作家蔵	24 1999年11月17日 <i>17. Nov. 99</i> 1999 油彩、写真	32 [CR 893-2] ユースト (スケッチ) <i>Juist-Skizze</i> 2005 油彩、キャンバス 作家蔵

33	41～55 [CR 913-13-14, 17-26, 30, 37, 40]	63 [CR 930-3]
2005年6月20日	アラジン	ストリップ
20. 6. 05	<i>Aladin</i>	<i>Strip</i>
2005	2010	2013～2016
油彩、写真	ラッカー、ガラス、アルディボンド	デジタルプリント、アルディボンド、 アクリル (ディアセック)
34 [CR 901]	56	64～67 [CR 937-1-4]
4900の色彩	MV 133 (シリーズ〈Museum Visit〉より)	ビルケナウ
<i>4900 Farben</i>	<i>MV 133 (aus der Serie Museum Visit)</i>	<i>Birkenau</i>
2007	2011	2014
ラッカー、アルディボンド、196枚のパネル	ラッカー、写真	油彩、キャンバス
35 [CR 903-1]	57	68 [CR 937E]
エラ	MV 134 (シリーズ〈Museum Visit〉より)	ビルケナウ (写真ヴァージョン)
<i>Ella</i>	<i>MV 134 (aus der Serie Museum Visit)</i>	<i>Birkenau (Fotoversion)</i>
2007	2011	2015～2019
油彩、キャンバス	ラッカー、写真	ジクレープリント、アクリル (ディアセック)、 4枚のパネル
作家蔵	58	69 [zu CR 937]
36	MV 136 (シリーズ〈Museum Visit〉より)	1944年夏にアウシュヴィッツ強制収容所で ゾンダーコマンド (特別労務班) によって 撮影された写真
2007年5月13日	<i>MV 136 (aus der Serie Museum Visit)</i>	Aufnahmen des Sonderkommandos im KZ Auschwitz II-Birkenau, Sommer 1944
13. 5. 07	2011	2015
2007	ラッカー、写真	ビグメントプリント
油彩、写真	59	元画像の所蔵は国立アウシュヴィッツ・ ビルケナウ博物館アーカイブコレクション Images from the archival collection of the State Museum Auschwitz-Birkenau in Oświęcim
37	MV 140 (シリーズ〈Museum Visit〉より)	70
2007年5月14日	<i>MV 140 (aus der Serie Museum Visit)</i>	2014年11月22日
14. 5. 07	2011	22. Nov. 14
2007	ラッカー、写真	2014
油彩、写真	60	油彩、写真
38	MV 142 (シリーズ〈Museum Visit〉より)	71
2008年2月15日	<i>MV 142 (aus der Serie Museum Visit)</i>	2014年11月23日
15. 2. 08	2011	23. Nov. 14
2008	ラッカー、写真	2014
ラッカー、写真	61	油彩、写真
39 [ED CR 139]	MV 144 (シリーズ〈Museum Visit〉より)	72
9月	<i>MV 144 (aus der Serie Museum Visit)</i>	2014年12月8日
<i>September</i>	2011	8. Dez. 2014
2009	ラッカー、写真	2014
デジタルプリント、2枚のガラス	62 [CR 928]	油彩、写真
ワコウ・ワークス・オブ・アート	8枚のガラス	72
40	<i>Acht Glasscheiben</i>	2014年12月8日
2009年6月2日	2012	8. Dez. 2014
2. Juni 2009	8枚のアンテリオ・ガラス、スチール	2014
2009	ワコウ・ワークス・オブ・アート	油彩、写真
油彩、写真		

73	81	89 [CR 944-1]
2015年1月24日	2015年3月6日	アブストラクト・ペインティング
24. Jan. 2015	6. März 2015	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
74	82	90 [CR 944-2]
2015年1月25日	2015年4月9日	アブストラクト・ペインティング
25. Jan. 2015	9. April 2015	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
75	83	91 [CR 944-3]
2015年1月30日	2015年4月10日	アブストラクト・ペインティング
30. Jan. 2015	10. April 2015	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
76	84	92 [CR 944-4]
2015年2月2日	2015年4月28日	アブストラクト・ペインティング
2. Feb. 2015	28. April 2015	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
77	85	93 [CR 944-5]
2015年2月3日	2015年7月14日 (2)	アブストラクト・ペインティング
3. Feb. 2015	14. 7. 15 (2)	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
78	86	94 [CR 944-6]
2015年3月3日	2015年7月23日 (3)	アブストラクト・ペインティング
3. März 2015	23. 7. 15 (3)	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
79	87	95 [CR 944-7]
2015年3月4日	2015年7月28日 (2)	アブストラクト・ペインティング
4. März 2015	28. 7. 15 (2)	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、板
80	88	96 [CR 945-1]
2015年3月5日	2015年7月28日 (3)	アブストラクト・ペインティング
5. März 2015	28. 7. 15 (3)	Abstraktes Bild
2015	2015	2016
油彩、写真	油彩、写真	油彩、キャンバス 作家蔵

97 [CR 945-2] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2016 油彩、キャンバス ワコウ・ワークス・オブ・アート	105 2016年7月2日 (3) <i>2. Juli 2016 (3)</i> 2016 油彩、写真	113 [CR 955] グレイの鏡 <i>Grauer Spiegel</i> 2019 エナメル、4枚のフロートガラス
98 [CR 946-1] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2016 油彩、キャンバス	106 [CR 949-1] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス	114 2021年3月30日 (2) <i>30. 3. 2021 (2)</i> 2021 グラフィイト、紙 作家蔵
99 [CR 946-2] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2016 油彩、キャンバス 作家蔵	107 [CR 949-2] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス	115 2021年5月28日 <i>28. 5. 2021</i> 2021 グラフィイト、紙 作家蔵
100 [CR 946-3] ヨシュア <i>Joshua</i> 2016 油彩、キャンバス	108 [CR 949-3] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス	116 2021年5月29日 <i>29. 5. 2021</i> 2021 グラフィイト、紙 作家蔵
101 2016年6月8日 (7) <i>8. Juni 16 (7)</i> 2016 油彩、写真	109 [CR 951-4] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス	117 2021年6月1日 <i>1. 6. 2021</i> 2021 グラフィイト、紙 作家蔵
102 2016年6月8日 (8) <i>8. Juni 16 (8)</i> 2016 油彩、写真	110 [CR 952-2] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス	118 2021年6月10日 <i>10. 6. 2021</i> 2021 グラフィイト、紙 作家蔵
103 2016年6月22日 (2) <i>22. 6. 16 (2)</i> 2016 油彩、写真	111 [CR 952-3] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス	119 2021年6月11日 (2) <i>11. 6. 2021 (2)</i> 2021 グラフィイト、紙 作家蔵
104 2016年6月25日 (1) <i>25. 6. 16 (1)</i> 2016 油彩、写真	112 [CR 952-4] アブストラクト・ペインティング <i>Abstraktes Bild</i> 2017 油彩、キャンバス 作家蔵	

120	127	134
2021年6月13日	2021年7月17日	2021年8月17日
13. 6. 2021	17. 7. 2021	17. 8. 2021
2021	2021	2021
グラフィイト、紙	グラフィイト、紙	グラフィイト、紙
作家蔵	作家蔵	作家蔵
121	128	135
2021年6月20日	2021年7月18日	2021年9月17日
20. 6. 2021	18. 7. 2021	17. 9. 2021
2021	2021	2021
グラフィイト、紙	グラフィイト、色鉛筆、紙	グラフィイト、紙
作家蔵	作家蔵	作家蔵
122	129	136
2021年6月24日	2021年8月12日	2021年9月18日
24. 6. 2021	12. 8. 2021	18. 9. 2021
2021	2021	2021
グラフィイト、紙	グラフィイト、紙	グラフィイト、紙
作家蔵	作家蔵	作家蔵
123	130	137
2021年6月25日	2021年8月13日	2021年10月4日
25. 6. 2021	13. 8. 2021	4. 10. 2021
2021	2021	2021
グラフィイト、紙	グラフィイト、紙	グラフィイト、紙
作家蔵	作家蔵	作家蔵
124	131	138
2021年7月9日	2021年8月14日	2021年10月5日
9. 7. 2021	14. 8. 2021	5. 10. 2021
2021	2021	2021
グラフィイト、紙	グラフィイト、紙	グラフィイト、紙
作家蔵	作家蔵	作家蔵
125	132	139【特別出品】
2021年7月14日	2021年8月15日	ムード
14. 7. 2021	15. 8. 2021	Mood
2021	2021	2022
グラフィイト、紙	グラフィイト、紙	写真
作家蔵	作家蔵	作家蔵
126	133	
2021年7月16日	2021年8月16日 (2)	
16. 7. 2021	16. 8. 2021 (2)	
2021	2021	
グラフィイト、紙	グラフィイト、紙	
作家蔵	作家蔵	

Gerhard Richter

豊田市美術館

2022年10月15日～2023年1月29日

主催：豊田市美術館、朝日新聞社

後援：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都、在日ドイツ商工会議所

【終了いたしました】

東京国立近代美術館

2022年6月7日～10月2日

主催：東京国立近代美術館、朝日新聞社

後援：ドイツ連邦共和国大使館、ゲーテ・インスティトゥート東京、在日ドイツ商工会議所

特別協力：ゲルハルト・リヒター財団、ワコウ・ワークス・オブ・アート

協力：小川香料ホールディングス、ルフトハンザ カーゴ AG、岡建工事

ゲルハルト・リヒター展

編集・執筆：鈴木俊晴（豊田市美術館学芸員）、榊田倫広（東京国立近代美術館主任研究員）

デザイン：須山悠里

発行：豊田市美術館



Toyota Municipal Museum of Art

豊田市美術館



東京国立近代美術館